

本表の略記法について

リソースに出現する CodeableConcept 型の要素は以下のような構造をとる。

No	要素 Lv1	要素 Lv2	要素 Lv3	要素 Lv4	多重度	型	値	説明
n	要素名				0..1	CodeableConcept		文書カテゴリ
n.1		coding			0..*	Coding		表現したいコンセプトのコード記述。繰り返しにより複数のコード体系によるコーディングで記述できる。
n.1.1			system		1..1	uri	“http:.....”	コード体系。
n.1.2			code		1..1	code	“B0EF”	コード。
n.1.3			display		0..1	string	“持続腹痛”	コード体系におけるコードに対応するの表示名
n.2		text			0..1	string	“長く続く腹部の痛み”	表現したいコンセプトのテキスト記述

しかし、表を見やすくするため、この文書では、これを次のように 1 行で省略表記する。値の欄は、4 つの行(子要素)に使う値を列挙するが、省略することもある。多重度の記載は、1 段目に CodeableConcept 型の要素自体の多重度、2 段目にその子要素 coding の多重度(上表 n.1 の多重度)を転記している。

n	要素名				0..1 0..*	CodeableConcept	“http:.....” “00” “持続腹痛” “長く続く腹部の痛み”	説明
---	-----	--	--	--	--------------	-----------------	---	----

なお、coding の多重度の最小値が 0 (すなわち省略可能) の場合には、コードによる記述をせず、以下のようにテキストだけで記述することも許されている。

表 ClinicalImpression リソース 臨床経過叙述情報

要素 Lv1	要素 Lv2	要素 Lv3	要素 Lv4	多重度	型	値	説明
resourceType						“ClinicalImpression”	ClinicalImpression リソースであることを示す
text				0..1	Narrative		本リソースをテキストで表現したものをに入れてもよい。
	status			1..1	code	“generated”	固定値。テキスト内容の全てがリソースのコンテンツから生成されたことを示す。
	div			1..1	xhtml	<div xmlns=“http://www.w3.org/1999/xhtml”>xxx</div>	値は例示。
identifier				0..1	Identifier		この情報に付番された ID

要素 Lv1	要素 Lv2	要素 Lv3	要素 Lv4	多重度	型	値	説明
	system			1..1		"urn:oid:..."	付番方法については「識別子名前空間一覧」を参照。値は例示。
	value			1..1		"2020-10-002933"	情報 ID の文字列。値は例示。
status				1..1	code	"stopped"	情報のステータス。 コード表: "http://hl7.org/fhir/event-status" in-progress completed entered-in-error 継続中、終了、エラー
statusReason				0..1	CodeableConcept	text:"アレルギーのため中止"	情報のステータス事由。コード化せずテキストのみで記述する。
subject				1..1	Reference		患者を表す Patient リソースへの参照。
encounter				0..1	Reference(Encounter)		関連する受診情報(外来または入院)への参照。
date				0..1	dateTime		この記録を記述した日時。
assessor				0..1	Reference(Practitioner PractitionerRole)		記録した(経過を認定・評価した)医療者情報への参照。
summary				0..1	string		臨床経過サマリ文字列(1M バイト以内)

